

# たんぽぽだより



## 温かいお気持ちに 感謝

理事長 荻部 一夫



光陰矢の如し。年々一年が早くなる気がします。コロナは収まらずですが、職員の緊張感ある感染対策と、ご家族の皆様をはじめ関係各位のご協力のお陰でなんとかここまで無事運営することができました。厚く御礼申し上げます。

思えば三月から四月にかけては、緊急事態宣言もあって、特に通所施設（こぶしの生活介護、たんぽぽ、清瀬事業所）への通所自粛のため、収入が大きく落ち込み、法人全体で数百万円規模で減収となりました。そのため、職員には四月の昇給停止と六月の賞与、勤め手当を減額支給することになり、皆も身を切る覚悟で協力してくれました。

五月ごろからは、学校閉鎖期間に、お子さんの世話をするために出勤できなかった職員への休業補償や収入減少を補助する持続化給付金などの救済制度も始まり大変助かりました。

それでも感染対策にかかる費用は多額になっています。二十四時間密接な距離で利用者様と関わることになる「こぶし」では、感染者が発生したときの緊急対応を示した「事業継続計画」を見直し、部屋や廊下を物理的に仕切る「応急区分壁」なども新設しました。

「たんぽぽ」では、ご利用者一人一人の作業スペースをビニールカーテンで仕切り、一日の受け入れ人数を減らし、密を避けるようにしています。そのため、全員が毎日通所できない事態もあり、ご利用者はもちろん、ご家族の方々にも大変ご迷惑とご協力をお願いしております。さらに、就労支援Bをご利用の方には、受注の仕事量も大きく減少した結果、工賃収入がほぼゼロになったものもあり、これを補完するため、職員が様々なアイデアでなんとか補償できるように頑張っています。

その後六月以降に、テレワークを推進する補助金や福祉施設職員への慰労金、さらに練馬区や東久留米市の慰労金制度も新設され、事務職員を除く職員へ直接支給されました。

こうした補助金や助成金をいただけることに、十分とは言えないまでも、有難いことだと感謝しています。それは、当然申請業務が必要で、支給要件を満たすことが証明できる文書を短期間に設定された期日までに作成しなければなりません。直接対人サービスに従事している職員のみならず全職員が協力して、現在もコロナに向かっていくことをご報告いたします。

その結果、上半期の財務状況は夏以降徐々に好転し、年度末には黒字になると予想しています。この間、こぶし保護者会や法人役員の方々からも応援のお気持ちを頂戴しましたし、多くの方々から励ましのお言葉をいただきました。心より御礼申し上げます。

まだまだ、イベントの中止や密を避けた運営をしなければならず、ご不便をおかけいたしますが、どうぞご理解とご協力をお願いいたします。

# 1月の活動予定

日	月	火	水	木	金	土
					1 冬季休暇	2 冬季休暇
3 冬季休暇	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16 開所日 13:00 帰り
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30 開所日 13:00 帰り

## 南町小へ、ベルマーク寄附をいたしました

11月12日（木）、生活介護の利用者様2名、たんぽぽ職員2名で南町小にベルマークの寄付に行かせていただきました。当日は、南町小の副校長先生に対応していただきました。ベルマークは、生活介護の皆さんで作成したカードと一緒に、副校長先生にお渡ししました。ベルマーク回収にあたりいつもご協力ありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いたします。

